

名家連ニュース

令和5年10月26日(木)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 池山 豊子
TEL/FAX(052)846-5576 NO.962号

◆◆ 精神疾患の基礎知識講座「家族に届ける」第1回 ◆◆

本年度の連続講座は5回にわたり、「メリデン版訪問家族支援」について、一般社団法人ジャパンファミリーワークプロジェクト(JFWP)の皆様が説明していただきます。

その第1回が、10月22日(日)10時から12時、名古屋市総合福祉会館7階研修室で開催され、45名が参加しました。

最初に JFWP 代表理事の佐藤純先生(京都ノートルダム女子大学)が、「求められる家族支援～家族まるごと支援とはどのようなものか」と題してお話されました。



家族ケアに押しつける社会や社会構造の中で悲鳴をあげる家族があとを絶たない。みんなねっと埼玉大会の大会テーマは「家族まかせにしない社会に」です。「家族がケアをしない権利」を保障するとともに、「家族がよりよいケアを受ける権利」を保障する必要がある。日本を除いた国では家族をないがしろにしてはいけないというケアラー法が制定されている。

家族任せにしている私たちの文化を変えることが必要です。本人もだいじ、だけど家族ひとりひとりもだいじにする家族まるごと支援が当たり前になる事が本プロジェクトの目的です。

そのためには、家族ひとりひとりの人生をも大切にしよう支援者の意識が変わらないといけないと同時に、家族の意識も変わる必要がある。本人たちはまだまだ力がありません。本人たちができないのだから代わりにしてあげる。というのはパターンリズム(父権主義)です。障害者権利条約に「私たちぬきに私たちのことを決めないで」と書かれている。福祉や医療をこうして欲しいというのは本人たちが行うべきだと思う。家族会は本人たちの組織をつくるのをバックアップしたり、ピアサポートの活動を支援すべきである。そして家族会は家族の立場を代表して、本人の代わりではなく、家族としてこういうことをして欲しいということを訴えるべきだと思います。

メリデン版訪問家族支援の特徴は、家族が集まりやすい自宅に来てくれる／家族ひとりひとりの思いやニーズを把握して支援してくれる／家族まるごとで本人の病気や障害を理解する／本人の SOS に早く気づき、どう対応したらよいかを本人と共有する／支援者が間に入って本人と家族がよりよいコミュニケーションの取り方を学ぶ／家族で話し合いをしていずれば話し合っただけで家族で問題解決ができるようにする。ことです。

次いで、JFWP 副代表の小松容子氏(宮城大学、精神看護専門看護師)が「メリデン版訪問家族支援の概要」と題して、国内での活動状況をお話されました。

5日間の基礎研修を開催して研修修了者を増やしている。訪問看護の中で併用して本支援を受けることができる。現時点で本支援を受けられる地域は限られている。残念ながら、愛知県ではまだその体制が整っていない。拠点施設とスタッフの確保がそろわないと実施できない。

今回の連続講座は、名家連及び JFWP の理事でもある長江美代子氏(一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター副会長)のご尽力により実現しました。次回は 11月4日(土)10時から12時、名古屋市総合福祉会館7階研修室で開催します。
(文責：実行委員、広瀬)